

# ひと街しごと

平成15年(2003)3月(年4回発行)

発行：(株)印刷紙工

札幌市中央区南15条西18丁目

Tel(011)561-3597

編集：ひと街しごと刊行会

札幌市中央区北1条西17丁目

北海道不動産会館4階

(有)編集工房海内 Tel(011)623-6652

No. 3



## 人のぬくもりが 通りにあった...

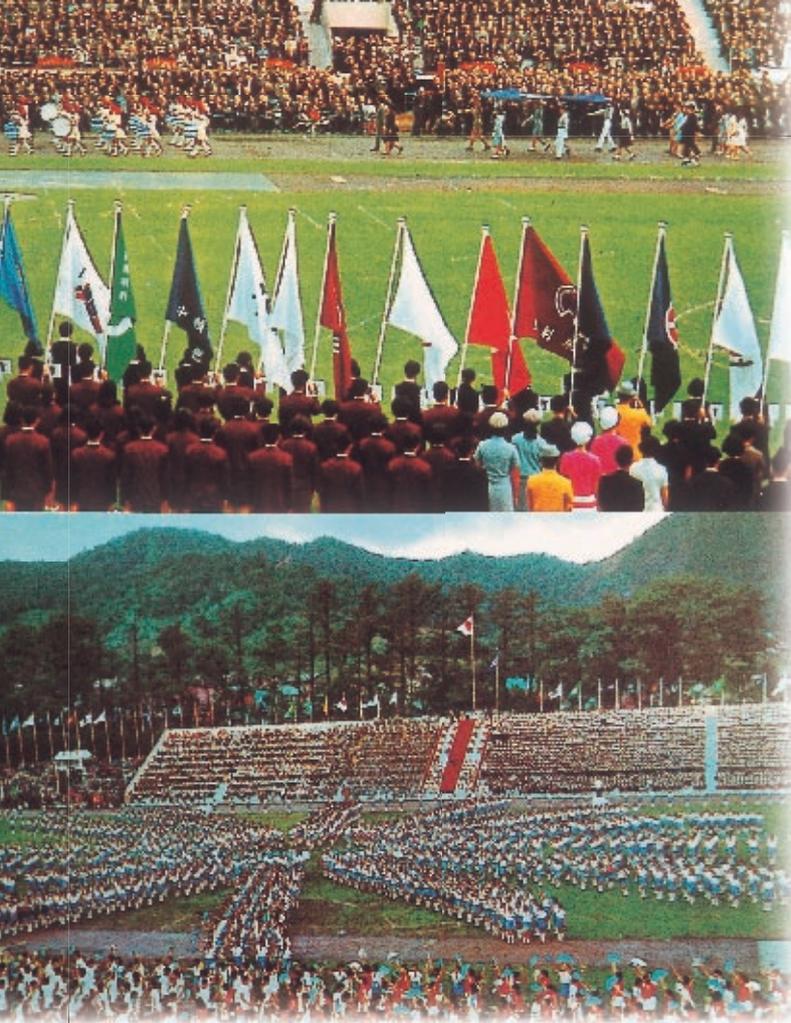
歴史はいつも未来へのみちしるべです。  
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが、  
少し合わなくなってきたと感じ始めたら、  
思い出カードを一枚一枚めくっていきましょう。

人の住むところ、市街地が歳月とともに変わっていくのを止めることはできません。でも古い家並みの残る町を歩くと、その何ともいえない風情に心がなごむのはなぜでしょうか。けっして懐古趣味ではなく、変わらぬことの大切さも教えてくれているようです。そろそろ効率ばかり優先するのを見直したら—そんな呼びかけにも聞こえます。



### 思い出 カード

まちかど編



ファンファーレと合唱で開幕



北海道百年記念祝典

「札幌オリンピックピック前夜」  
あふれる活気

今年（明治）はいえ百三十五年ですからあれから三十五年  
一地方自治体でこんなイベントがよく可能だったものです  
それだけ北海道にも活気があふれていた  
昭和四十三年九月二日  
札幌市円山陸上競技場に四万人が参列して北海道百年記念祝典が行われました

雨が降ったり止んだりの札幌市円山陸上競技場は人、人、人で埋めつくされた（写真上3枚は「北海道百年記念事業の記録」から複写）

明治以来、国策による開発が進められた北海道。戦後はことあるごとに本州・中央からの自立が叫ばれ、たくさん人の試みが生まれては消えていきました。そしてこの二十一世紀初頭、北海道経済はどん底です。こんなときにこそ思い起こしたいフロンティアスピリット——北海道百年記念祝典は道民あげて、そのたくましさや全国にアピールした日ではなかったでしょうか。

天皇・皇后両陛下、そして佐藤栄作内閣総理大臣（当時）を迎え、式典の様子はテレビを通じて全国放映されました。そのプログラムは、同年十月の国による明治百年式典が地味にみえるほど盛大でした。

式典と同時に様々な事業も行われました。現在の七稜星の道章・道旗の制定。道庁新庁舎の建設。屋上八角塔を再現しての赤レンガ庁舎復元。開拓記念館と百年記念塔の同年着工などです。また祝典に間に合うように、本道初の国鉄（JR）電化が小樽——滝川間で実現しました。すでに四年後の札幌冬季オリンピック開催が決定しており、そのための諸施設の建設開始が翌四十四年。札幌市営地下鉄の建設はこの年六月から始まっています。二年後は大阪万博。まさに高度経済成長のピークでもありました。祝典に当たって各界からたくさん



道本庁舎の新築工事中に開拓史札幌本庁の本庁舎跡地が見えられた



開拓功労者の銅像も建立  
写真は大通西10丁目の黒田清隆像

メッセージが寄せられました。木村武雄道開発庁長官（同）は「二十一世紀には躍進する日本列島の頭部に立つ」だろうと。特に本道と縁の深い本州九県の知事には、伝書バトを飛ばしてメッセージを依頼し、同じく伝書バトで祝辞が送られてきました。その中で富山県知事は「日本の青春・北海道、そして雄大な潜在力に富む北海道——この百年の歩みが二十一世紀の北海道を築く糧となりますよう」と述べています。全国から募集したテーマスローガンは「本更津市の主婦の『風雪百年 輝く未来』」に。その輝く未来の二十一世紀にあつて、北海道は日本の頭脳、日本の青春たりえているのでしょうか。

# 来た道、行く道。

様々な先達がいるからこそ  
二十一世紀があるんだよ——  
スローコミュニケーションを求めて。

## 市

民の暮らしとともに歩む地域の  
小売店が代々、家業を継承して  
いくのは大変なことです。祖父松次郎さ  
んが三十歳のときに現在地で創業して  
六十七年という西山ふとん店。一昨年、  
正式に三代目を継いだ西山俊行さん  
(三)です。

今では全国に定着したふとんの丸洗  
いの元祖、札幌ではこだけという自社  
で綿を洗ってからの打ち直し——消費  
者の様々な要求に応え、しかも紹介客が

西山俊行さん——札幌市西山ふとん店

## 創業祖父は

# リヤカーで営業、 三代目は介護視野に

多いのはまさに老舗の誠実な仕事ゆえ。  
しかし信用だけでは続けられないの  
もまた事実。「自転車にリヤカーで三日



平成元年に新装になった3代目の  
店舗ビル。下はカラフルな店内

かけて厚田や浜益に商売に行った祖父  
の時代とは違って当然です。大事なのは  
企業としての永続性でしょう」と西山さ  
ん。すでに視野に入っている新しい事業  
展開は介護部門。寝たきりのお年寄りに  
きれいなふとんに寝てもらいたいとい  
う願いからです。



商売の原点は、  
大学卒業後四年間の、  
名古屋の間屋での体  
験。そしてその修業  
中に八十六歳で亡く  
なった祖父に教わっ  
たことです。「ふとん  
にはこだわるな。商  
いを通じて人にかわ  
いがってもらえ」と  
いう言葉は今でも忘  
れられません。

店舗と前店舗の写真を店内に掲げてい  
るのは、早くに父を失って、二代目の叔  
父や母親などこ  
こまで店の歴史  
を支えてくれた  
人たちへの、感  
謝の気持ちの現  
われでしょう。  
(東区北十六条東  
一丁目)



本欄への自薦、他薦を  
お待ちしております。



そ  
ば屋の前を通ったときに、ダシを  
とっているよい匂い。カツオ節に  
ソウダ節やサバ節を混ぜたものです。富



削り節を作る年季の入った  
自動回転式カンナ

## 「鰹節削って半世紀 老舗デパートも 認めた品質」

富樫邦彦さん——札幌市富樫政雄商店

樫政雄商店はこうした業務用の削り節を  
作り続けて五十三年。今は二代目の富樫  
邦彦さん(五)が取り仕切っています。

もともとダシにはそれほど気を遣って  
いなかった北海道。創業の昭和二十年代  
半ば頃は、四国あたりのサバ、ムロアジ、  
イワシといった混合削り節が花カツオと  
して売られていたそうです。ですから先  
代が「生活のために何か新しい仕事を」  
(富樫さん)と始めたところ、とても珍  
しがられ、また重宝されたとのこと。  
カツオ節といっても種類が多く、カツ  
オを煮熟・焙乾し、天日干しでカビを付  
けた本節、カビを付けない荒節、そして  
本節より少し小型のカツオで作った亀節

が一般的。削り節はこのほか、ソウダガ  
ツオ、サバ、ムロアジ、イワシからも。  
主な産地は土佐、枕崎、焼津などです。  
最近はやや得意先の厳しい状況も伝わって  
きますが、「味のわかつた人からはおい  
しい、全然違う」という評価は変わりませ  
ん」と富樫さん。大手は向こうで削って  
持つてくる。こちらは削ってすぐのもの  
が口。違いは言わ  
ずもがなでしょう。  
工場でも売れもし  
ていますが、某老舗  
デパート地下のお茶  
売り場でそとカツ



右から本節、荒節、  
ソウダ節、サバ節、ムロアジ

才節を頼むと、奥から白い袋に入ったこ  
ちらの製品が出てきます。まさに品質の  
確かさを証明するものでは。日本古来の  
食文化の将来に、悲観材料はあまりない  
ようです。



屋上には「鰹」の  
大きな文字が

(豊平区  
平岸一条  
九丁目)

## 本・づ・く・り 相談室



### 自分史か自分誌か どんな本でも まず年表づくりを

**Q** はっきり自分史と決めたわけではありませんが、何らかのかたちでこれまでの歩みをまとめようと思っています。まずどんなことから取りかかればよいのでしょうか。

**A** いま一般にいわれる自分史というのは、文字どおり自分の歴史、歩んできた道をまとめることです。自分の歴史—何だか長い道のりだなあ、まとめるのが大変そうだなあ、こんな気持ちになる人もいますでしょう。

そこで「史」を「誌」に置き換えるとどうでしょうか。自分史が自分誌になりますね。自分の歴史

ではなく、自分についてのことを誌す(しるす)ということです。

つまり旅行記でも趣味の記録でも、写真や俳句と随筆を組み合わせたものでも、あるいは夫婦や家族との合作でもと、どんなジャンルでもOK。本づくりの楽しさが増すかもしれません。

それは自分史の一部を切り取って、拡大していく作業でもありますから、どういう本にするにしても、まず自分史年表を作ってみることをおすすめします。そこに家族や地域の出来事、世の中の動きも合わせて記入すれば、より時代が鮮明になり、思い出すことも増えるはずですよ。

## ここで調べる

地域の郷土資料館

### 自分で確かめる 開拓時代の生活

書もあるにはありますが、自分の目で確かめることができれば、自信を持つて記述も進められるというものです。

そこで訪れてみたいのが

地域の郷土資料館。札幌市の場合ですと、山鼻村開拓記念館(中央区)、太平会館資料室(北区)、烈々布郷土資料室(東

地域の歴史、先祖の暮らしがどんなだったかを知るのに、書物や参考

区)伏古記念館(同)つきさつづ郷土資料館(豊平区)福住開拓記念館(同)平岸郷土資料館(同)清田地区郷土館(清田区)定山溪郷土博物館(南区)手稲記念館(西区)など。それぞれの地域で開拓に当たった人たちの苦労がじかに伝わってきます。

昔の生活用具などもたくさん展示してありますから、お年寄りの記憶を呼び戻してもくれるでしょう。気候のよいときに親子三代でのぞいてみてはいかがですか。(写真は平岸郷土資料館)

## 出版ニュース



合同第二刊集 山魚(二)

清里山魚吟社



(B6判 168ページ)

どっぴい、生きている

波瀾万丈の人生譚

桂末治

再興というかたちで昭和五十五年に発足したという斜

里町清里町の山魚吟社。ポランティア代表、農業、主婦などの会員七人が、昨年急逝した原汀歩主宰をしのんで上梓したものです。

「自然環境に恵まれた町に芸術文化の灯を炎やしつづけるために、さらなる精進を期しております」(河口のぼる)と。

知床の空かたむけて秋高し

原汀歩

ざつと四百字詰原稿用紙四百枚を超えようかというまさに波乱に満ちた自分史。

著者は給食・外食部門で成長を遂げつつあるどうきゅうの会長。京都生まれで応召後、北九州、広島の前半生、そして後半の札幌と人生のステージは目まぐるしいもの。しかしそれ以上に心を打たれるのが、生きるために貧困や家族の病と闘う姿でしょう。何度もこれまでかという場面を乗り切って、北海道給食センターを今日のどうきゅうにするまでのプロセスは、小説さながらです。



(A6判変型 320ページ)

## お気軽に「二緒」に

北九州市が毎年募集している自分史文学賞。十三回目の昨年の応募点数は三百六十点とのこと。このうち男性は二百六十二点、女性九十九点。年齢も幅広く最低二十歳、最高九十一歳。北海道からは九点の応募があったようです。

でも賞の名前、四百字詰め原稿用紙、百枚以上という条件など、書き慣れた人が、波乱に富んだ人生だった人が、そんな人

でも賞の名前、四百字詰め原稿用紙、百枚以上という条件など、書き慣れた人が、波乱に富んだ人生だった人が、そんな人